

令和6年度 学校評価 自己評価書（2学期）

1 学校の重点目標

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| ○ 子ども主体の活気のある学校   | ○ 規律を重んじ心豊かな子供を育てる学校 |
| ○ 確かな学力を身に付させる学校  | ○ 学習環境が整備された学校整備     |
| ○ 地域と連携し、共に成長する学校 | ○ 組織力を生かし校務を遂行する学校   |

2 課題と改善策（※矢印は令和6年度1学期との比較）

	評価項目	職員	評価結果と改善方策（○成果 △課題 →方策）
重点項目	1 生涯にわたって生きて働く学力の育成 2 豊かな心、自信と自己肯定感の醸成 3 たくましい体、安全・安心な開かれた学校づくり	3.0↑ 2.9- 3.1-	○「頑張る5」が職員・児童にも浸透し、全校で共通して意識し、実践を積み重ねている。 △ あたたかい言葉遣いについて、8割を超える高い評価ではあるが、1学期と比べ、少し低下した。 → コミュニケーションだけでなく、思考の面でも言葉の力は重要である。引き続き取り組みたい。
生徒指導	1 開発的生徒指導の推進 2 特別支援教育や人権教育の視点を取り入れた生徒指導の推進 3 いじめ問題の適切な把握と解消に向けた取組、いじめを起こさない先手指導の推進	3.1- 3.1↓ 3.3↓	○ 児童の自己評価においても、自己肯定感の評価が高くなった。日頃の指導を積み重ねた結果である。 △ 不登校児童について、働きかけが進んだ児童もいたが、全体的な取り組みには至っていない。 → 関係機関との連携により、様々な可能性を探ることができている。3学期も継続して取り組みたい。
学力向上	1 指導内容の明確化 2 取り立て指導の推進と充実 3 家庭学習の充実	2.9↑ 3.2↑ 3.1-	○ 面談や一授業の取り組みの際、授業研究を行い、授業改善について話し合うことができた。 △ 一人学習については、思考を伴ったものになっているか、常に意識しながら授業を進めたい。 → 校内研修から得られた共通実践事項を確実に実践していく。また学力調査のCBT化にも対応する。
心の教育	1 特別の教科「道徳」と読書活動の充実 2 人権教育の充実	3.0- 2.8↓	○ 人権教室を通して、人権意識を高められた。 △ 児童の日頃の言動には、まだ人権意識が不十分なものも見られる。具体的な取組を継続する必要がある。 → 日常的な声かけを意識して行うとともに、どの授業においても人権教育の視点を意識したい。
体力向上	1 実態把握と教科体育の充実 2 けがや病気の予防と治療の促進	2.6- 3.0-	○ 行事に向けてはもちろん、行事後も自主的に体力づくりに取り組む児童の姿が見られた。 △ 体力テストで続いて落ち込んでいる項目がある。 → 縄跳び大会に向けての取り組みにより、調整力の向上を期待できる。授業での補強運動の充実や、日常的な運動量を向上させたい。
教育環境	1 校内設営の充実 2 校内美化の推進 3 服務規律の厳正確保と業務改善の推進	2.9↓ 3.0- 3.2↑	○ 動的設営の実施や、空き教室等の環境整備を進められた。校内美化についてもよい評価を得られた。 ○ 超過勤務時間の改善が見られた。 → 引き続き退庁時刻を意識した業務改善を進める。

3 次学期（年度）に向けての取組

- 校内研修や一授業を通して、思考を伴った一人学習について考えていく。
- 校内研修を通して、明確にされた授業や学びタイムでの共通実践事項を確実に実践する。
- 「頑張る5」のうち、特に「言葉とあいさつ、人の話をしっかり聞く、手を汚す仕事を懸命に頑張る」という3つの項目について、引き続き重点的に働きかけを行う。
- 基本的な生活習慣の育成（家庭学習・インターネット利用を含む）を目指し、PTAとの連携をさらに図り、保護者・児童が意識して自ら取り組めるよう啓発を行う。